

令和8年度

貞光小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

主体的に生き生きと学び、自ら考え抜く児童の育成
①「わかる・できる」を実感させ、確かな基礎・基本の定着を図る指導の工夫
② ICTを効果的に活用し、対話を通して思考を深める授業のデザイン
③ 自ら課題に向き合い、粘り強く考え抜こうとする態度の育成

校長

学力向上推進員

【各校の取組状況の把握について】

管理職参観や協議を通して、児童のつまずきや変容から教員の取組状況を継続的に把握する。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<ul style="list-style-type: none"> ○ 与えられた課題には取り組もうとする姿が見られる。 ● 意欲や学力の個人差が大きい。 ● あきつぱく、粘り強く取り組めない児童がいる。 ● 間違いをそのままにし、内容の定着が不十分な児童がいる。 ● 応用問題や苦手な課題に関し敬遠する傾向がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得し、「わかる」「できる」を実感できる。 ・既習事項を他の学習場面や生活場面に活用できる。 ・間違いを自ら修正し、正しく理解しなおすことができる。 ・「丁寧さ」や「見直し」に価値を見出して取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート等で学習を整理し、取り組みやすさを整える。 ・机間指導でつまずきを早期に把握し、理解の修正につなげる。 ・短時間の確認で「できた」経験を積み重ねる。 ・取り組んだ過程や工夫、挑戦した姿を具体的な言葉や記録で認め、達成感を共有する。 			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の考えを発表したり、友達の意見を聞こうとしたりする姿勢が定着してきている。 ● 課題に対して必要な情報を収集・整理し自分の考えを深める力が十分ではない。 ● 複数の意見を比較し、新たな視点や考えを創造する力が十分ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを多様な方法(書く・話す・ICT)で表現できる。 ・他者の考えと比較しながら、自分の考えを深めることができる。 ・理由付けや比較を通して思考を整理し、表現できる。 ・試行錯誤しながら考え続けることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音声入力やICTを活用し、「書く以外」での表現手段も保障する。 ・Googleスライド等の共同編集機能を活用し、思考過程をリアルタイムで可視化する。 ・他者の考えを参照・模倣できる環境を整え、「一人で止まる時間」を減らす。 ・ペア・グループ活動など得意な参加形態から関与させる。 ・全体共有画面等で意見を可視化し、比較・整理を促す。 			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<ul style="list-style-type: none"> ○ 与えられた活動には取り組もうとする児童は多い。 ○ Noメディアデーや家庭読書の取り組みを通して読書への意識ができてくる。 ● 応用問題などじっくり考える問題を回避する傾向になる児童が多い。 ● 自主学習の内容や学習の質にばらつきがある。 ● 自分で計画を立てて自分で振り返ることができにくい児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら課題に向き合い、最後までやり抜こうとする。 ・「間違い」を受け入れ、改善につなげることができる。(レジリエンス) ・自分の学習状況を振り返り、次の行動を決めることができる。(メタ認知) ・自分に合った学習量や方法を選択し、主体的に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の量・難易度やヒントを調整し、全員が最後までやり抜ける課題設定と成功体験を保障する。 ・複数教員での見取りと過程重視の評価により、粘り強く取り組む姿勢を早期に認めて支援する。 ・「失敗は学びにつながる」という価値観を共有し、間違いを生かして改善できる力を育てる。 ・振り返りと目標設定を習慣化し、自分の学びを調整しながら主体的に取り組む力を育成する。 			